

令和5年度 学校関係者評価

高知県立幡多看護専門学校

1. 日時：令和6年6月14日 10:00～10:40
2. 場所：幡多看護専門学校 校長室
3. 学校関係者評価委員
 - 1) 幡多けんみん病院 経営事業部長
 - 2) 幡多けんみん病院 看護部長
4. 高知県立幡多看護専門学校 出席者
 - 1) 副校長
 - 2) 事務長
 - 3) 教務主任
5. 評価対象：令和4年度 重点項目の取組状況
6. 資料：1) 学校関係者評価委員会実施要領 2) 自己評価書 3) その他関係資料
7. 評価基準：4段階評価及び総評
 - 4：大いに達成できている（大いに成果がみられる）
 - 3：達成できている（達成がみられる）
 - 2：あまり達成できていない（あまり成果がみられていない）
 - 1：全くできていない（全く成果がみられない）

評価基準：4段階評価及び総評

- 4：大いに達成できている（大いに成果がみられる）
- 3：達成できている（達成がみられる）
- 2：あまり達成できていない（あまり成果がみられていない）
- 1：全くできていない（全く成果がみられていない）

評価結果

1 地域に貢献できる質の高い看護師の養成をめざす		自己評価	他者評価
①各学年の指導方針及び実施計画に基づき、個々の学生の状況に対応した指導、学習支援を行う。		4	4
②実習受け入れ先である医療機関や施設と連携を深めるとともに、実習指導力を高め効果的な臨地実習を実施する。		3	4
③受験者全員が、看護師国家試験に合格する。		4	5
④卒業生の県内定着率 80.0%を目指す。		2	4
自己評価	①支援チーム体制を継続し、実習日以外の日には各学年でミーティングを行い、学生状況等情報を共有し協力しながら個々の学生に関わることができた。又、学年を超えて協力体制がとれていた。 ②臨地実習に行けない事も多かったが、工夫をしながら学内実習ができた。2年生の実習では、新カリキュラムとなったことでの課題も明らかになった。 ③模擬試験の成績が振るわない学生には、チューター制をとり学習に対しての個別指導やメンタル面での関わりを行い卒業生23名全員が国家試験に合格することができた。 ④幡多地域の病院紹介や就職面談を定期的の実施したが、県内の就職率は78.3%と目標の80%に達することができなかった。		
総評	③について、学生はもちろん教員ほかスタッフの努力が、全員合格という数値に表れており、評価する。 ④について、そもそも分母（生徒数）が小さい中で県外出身者が一定数いることを考えると、重要視する必要は無いのでは。		

2 教員の教育力の向上を図る		自己評価	他者評価
①教員の学内研修を計画的に実施する		3	4
②教員間の連携強化		3	3
③同一科目を複数の教員で担当し、学習効果を高めお互いの教育技法を学ぶ		4	4
④各学年で目標設定し、チーム内で教育力向上を目指す		2	4
自己評価	①ICT を利用し、ランチョンセミナーとして昼食を食べながらの研修を計画したが、3 回のみの実施となり、計画通り実施できなかった。実習中は、休憩時間も統一されていないため昼休憩中の参加は困難であった。無理なく参加でき、研修後少しでもディスカッションできるとお互いが研鑽できる場になったと考える。 ②日々ミーティングを実施することで、タイムリーに課題に取り組むことができた。しかし、全員の教員がそろう日が少ないため、必要事項があれば個別に伝達を行った。特に、学内実習になった時は実習担当の看護教員間で共有し実習指導の参考とすることができた。 ③複数の看護教員が関わる事により、個々の学生の特徴や修得状況が具体的にわかり、そのことを看護教員間で共有し実習指導等の参考にすることができた。		
総評	①～④について、項目 1 で述べたように、国家試験全員合格という成果が全てを物語っていると評価している。 なお、働き方改革や労働基準法の観点より、職員の健康にも配慮しながら取り組んでいただきたい。		

3 適正な学校経営・管理を実施する		自己評価	他者評価
①自己点検・自己評価により抽出された主要課題については改善計画に基づき実施していく。(自己点検・自己評価委員会)		3	4
②新カリキュラムの意図を全教員が理解し、適宜シラバス・実習要綱の修正を行う。		3	3
③南海トラフ地震対策について、県立の看護学校としてどのように取り組むか具体的に行動できるように防災教育の実施及びマニュアルの評価を行う。		3	3
④新型コロナウイルス感染症予防策については、国や県の動向を考慮しながら、看護学校として必要な感染対策を継続していく。		4	4
自己評価	①自己点検・自己評価について全項目の評価を令和6年度には実施予定である。令和5年度は全項目を全職員で分担し、点検中である。 ②新カリキュラムについて、各教員が担当したところについて追加、修正することができた。追加、修正箇所は教務会で提案し、他の教員の意見を集約しながら実施した。 ③新入生は防災グッズの購入し、通学路マップを作成し、通学路の危険箇所や避難場所、津波危険箇所を再確認することができた。防災マニュアルの修正を災害委員会を中心に行った。次年度は、学生・職員にマニュアルの周知を行っていく。 ④学生・教職員共に感染予防行動をとることができたが、コロナ以外（インフルエンザ等）に罹患する学生もあり、やむを得ず停止となることもあった。3年生は、感染症に罹患することなく全員が国家試験に臨むことができた。		
総評	③・④について、生徒・職員の安全を第一に、トライ&エラーを繰り返しながら共有していくことが、より現実的な対策につながると思われるので、今後も職員や生徒の知恵を集約しながら進めて欲しい。 全てに関わることであるが、近年の定員割れ、高知県内の看護学校の相次ぐ閉校等、年々看護師確保が困難となると思われる。 人材確保については県全体で取り組むことはもちろん、貴校の強みである「隣にある公立病院が講師を務めるなど、教育現場と医療現場の密な関係が構築出来ている」等をアピールし、看護師確保の入口機能を維持・強化していただければと思っている。		